

学園の今を伝える立正大学学園新聞

# RISSHO DAIGAKU GAKUEN NEWS

P3 福祉アートで広がる学び  
チャレンジ奨学生が美術展を開催！  
P5 本学水泳部 競泳プロコーチ高城氏と  
アドバイザー契約を締結  
P6 学部あれこれ

P8 研究推進・社会貢献センターより  
P9 2025年度卒業生就職状況報告  
P12 笑顔と声で立正大学を応援！  
応援指導部を特集

Vol. **165**  
Autumn 2026



立正大学淞南高等学校

野球部3年ぶり4回目 **祝** 甲子園出場！

サッカー部6大会連続19回目 **祝** インターハイ出場！



 立正大学学園

立正大学 品川キャンパス 〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16  
立正大学 熊谷キャンパス 〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉1700  
立正大学付属立正中学校・高等学校 〒143-8557 東京都大田区西馬込1-5-1

Website

学園新聞Web版はこちらから

立正大学マガジン



# 大学祭のお知らせ

品川キャンパスの橘花祭、熊谷キャンパスの星霜祭が  
今年も同時開催決定！

## 橘花祭

KIKKASAI

テーマ

すいこう

翠光



橘花祭SNS

開催日程 品川キャンパス

2026年

10月31日(土) 10時～17時

11月 1日(日) 10時～15時



＼橘花祭でお待ちしています！／



昨年度パレード集合写真

第61回橘花祭のテーマは、「翠光」です。

「翠」は、深く澄んだ青緑や若さ、生命力、自然の美しさを表し、「光」は輝きや希望、未来を象徴しています。この2つの漢字を組み合わせた「翠光」には、一年を通して青々と茂る橘の木に、たくさんの実が光のように輝く姿を私たち学生に重ね合わせ、橘花祭全体が大きな光となるようにという願いが込められています。

今年の橘花祭は、例年どおり2日間の開催を予定しています。運営を担う第61回橘花祭実行委員会は、「翠光」のテーマのもと、学生や来場者のみなさまをはじめ、橘花祭に関わるすべての方にとって、この2日間が輝かしく心に残る時間となるよう準備を進めています。

当日は、幅広い世代のみなさまに楽しんでいただけるさまざまな企画をご用意しています。ここでは、その中でも特に注目していただきたい2つの企画をご紹介します。

1つ目は、橘花祭の幕開けを飾る恒例のパレードです。1日目には、ゲートシティ大崎から立正大学までの道のりを、学内外のかわいらしいキャラクターたちが、応援指導部や吹奏楽部による華やかなパ



昨年度パレードステージの様子

フォーマンスとともに行進します。さらに2日目には、パレードに参加したキャラクターたちが学内に登場し、一緒に写真撮影を楽しめる時間も設けています。見かけた際はぜひお声がけください。

2つ目は、縁日企画です。スーパーボールすくい、射的、輪投げ、カップインボールなどのお祭りならではのゲームに加え、綿菓子や飲み物の販売も行います。小さなお子様から大人まで、多くの方にお楽しみいただける企画となっていますので、ぜひお立ち寄りください。

このほかにも、「誰もが自分らしさを発揮できる場」をコンセプトとしたキャンパス・スターコンテストをはじめ、毎年好評の新鮮な野菜の販売や謎解き企画など、多彩なイベントをご用意しています。また、部活動やサークル、ゼミによる教室企画や模擬店、ステージでのパフォーマンスでは、各団体の個性あふれる企画でみなさまをお迎えします。さらに、著名人による講演やキャラクターショーの開催も予定しています。

橘花祭を支えてくださるすべての方への感謝の気持ちを込めて、立正生一丸となって橘花祭をつくり上げます。みなさまのご来場を心よりお待ちしております。

## 星霜祭

SEISOSAI

テーマ

Link

～重なる想い、  
繋がる未来へ～



星霜祭SNS

開催日程 熊谷キャンパス

2026年

10月31日(土) 10時～18時



＼星霜祭でお待ちしています！／

「星霜祭」という名称には、毎年11月(霜月)頃開催される大学祭として、「これからも末永く続いてほしい」という願いが込められています。

第39回星霜祭のテーマは、「Link ～重なる想い、繋がる未来へ～」です。

「Link」には、「つながり」や「重なり」という意味があります。星霜祭に関わるすべての人の想いが重なり合い、活動を通して生まれるさまざまなつながりが、単なる交流を超えて未来を切り拓く力となるよう願いを込めて、このテーマを掲げました。

ここでは、第39回星霜祭の主な企画をご紹介します。

毎年恒例のゲスト公演では、今年度も著名人をお招きする予定です。また、熊谷地域を中心に展開するキッチンカーの出店も、昨年同様に実施を予定しています。さらに、実行委員会主催企画では、昨年初めて開催した縁日企画に加え、新たな企画も多数ご用意しています。

大学祭ならではの課外活動団体や有志団体による展示や体験企画、ステージパフォーマンスも実施します。各団体、来場者のみなさまに楽しんでいただけるよう準備を進めています。また、学内を巡るスタンプラリーを達成した方を対象としたビンゴ大会では、豪華景品をご用意しています！

星霜祭には毎年、多くの卒業生にもご来場い

ただき、同級生との再会の場であるとともに、課外活動団体の先輩・後輩が交流を深める機会にもなっています。ぜひ星霜祭へ足を運んでいただき、進化を続ける立正大学熊谷キャンパスの「今」をご覧くださいければ幸いです。

「より活気あふれる大学祭を熊谷キャンパスにつくりたい」という想いから、星霜祭は年々発展を続けています。参加団体数も増え、開催は1日限りではありますが、その内容はますます充実しています。来場者数も年々増加しており、星霜祭はこれからもさらなる進化を目指して歩み続けます。

学生はもちろんのこと、卒業生やご家族、ご友人など、ぜひお誘い合わせのうえご来場ください！ 私たちと一緒に星霜祭を盛り上げましょう！みなさまのご来場を心よりお待ちしております。



「Hot Fergie」昨年度パフォーマンスの様子

# キラリ モラリスト×エキスパート 輝く人

## 障がいのある方々の“世界”を伝えたい チャレンジ奨学生 佐久間さんが美術展に込めた思い

立正大学チャレンジ奨学生は、学生のチャレンジとキャリアアップを支援することを目的とした奨学金制度です。入学試験の成績優秀者を対象に、4年間で最大200万円の学業奨励金に加え、留学や資格取得、フィールドワークなどの挑戦に対して最大120万円のチャレンジ奨学金を給付します。今回は、この制度を活用し、障がいのある方々の作品を展示する美術展「君から見える世界はどんな世界？」を開催した社会福祉学部<sup>さくまちか</sup>の佐久間千嘉さん(3年生)に、お話を伺いました。

### —チャレンジ奨学生に応募した理由

「学生が挑戦したいことに対して大学が支援してくれる」という点に魅力を感じたからです。4年間で最大200万円の学業奨励金に加え、チャレンジ奨学金として挑戦そのものも支援していただけることは大きいと感じました。せっかくの大学生活なので、活用できる制度は活用し、自分も挑戦してみたいと思い応募しました。

### —美術展を開催しようと思ったきっかけ

一番のきっかけは、チャレンジ奨学生として何か形に残る挑戦をしたいと思ったことです。もともと私は「誰かの役に立ちたい」という思いから福祉の道を志しました。また、高校まで美術に取り組んでいたこともあり、福祉と美術を掛け合わせた企画として、美術展が最適ではないかと考えました。入学時から、この展示会をいつか実現したいと思っていました。

### —「君から見える世界はどんな世界？」というタイトルに込められた思いは

障がいのある方の作品を、「障がいがあるからすごい」「感動する」といった視点、いわゆる“感動ポルノ”のような形で見てほしくないという思いがありました。作品には、それぞれの作者の思いや、その人だけの世界が込められています。作者の方や施設職員の方と実際にお会いし、背景や個性に触れたからこそ、一人ひとりの「世界」を感じながら作品を見てほしいと思い、このタイトルにしました。言葉一つでも差別的なニュアンスにつながらないか、何度も悩みながら決めたタイトルです。

### —展示作品はどのように集めたのか。

#### また作品に作者の背景やご自身の感想を添えた理由は

大学1年次から全国の福祉アートに触れ、少しずつ知識やつながりを深めてきました。作品は基本的に直接交渉で集めました。福祉施設や作業所を訪れ、自分が心を動かされた作品に出会った際には、「ぜひ展示させてください」とお願いしました。ただ、電話の段階で断られることも多く、作品集めは簡単ではありませんでした。

また、作品には作者の背景や私自身の感想を添えました。ただ作品を見るだけでは伝わらないものがあるからです。例えば、丸をたくさん描く作家さんがいますが、その背景には、お母さんがカレンダーに書いていた丸印の記憶がありました。このような制作背景を知ること、作品の見え方は大きく変わります。実際に足を運び、作者の性格や思いに触れたからこそ伝えられるものがあると感じ、背景説明も大切にしました。

### —企画開催までで大変だったこと、うれしかったこと

一番大変だったのは作品集めです。何度も断られ、心が折れそうになることもありましたが、それでも大学1年次から全国の福祉アートに触れ、少しずつ知識やつながりを深めてきたことが、今回の展示につながりました。でも大変なこと以上にうれしかったことの方が多かったです。ずっと実現したかった企画が、自分の思い描いていた形で実現できたこと。そして、準備や運営を支えてくれた友人たちの存在です。学部を超えて学生が協力してくれました。また、ゼミの新井先生には悩んだ時に親身になって相談に乗っていただき、大きな支えになりました。作品を提供してくださった作者の方々や施設職員の皆さんにも感謝しています。

### —今回の展示を通して感じてほしいこと

まずは純粋に「おもしろい」と感じてほしいです。私自身、展示したすべての作品に対してそう感じました。そして、障がいのある方々が見ている「世界」を少しでも感じてもらえたらうれしいです。開催直前までは「誰も来てくれなかったらどうしよう」と不安でしたが、3日間で356人もの方にご来場いただきました。来場者アンケートでも、「見えているものや心の動きは同じ部分もあるのではないかと感じた」「解説を読むことで作品の見え方が変わった」といった感想をいただき、来場者の方々に作品の背景まで伝わったことを実感しました。

### —立正生へのメッセージ

今回、チャレンジ奨学生として、自分が入学時からやりたいと思っていた福祉アートの実現することができました。自分自身が「何かやりたい」「変えたい」と思って行動すれば、周囲の力を借りながら形にできるのだと実感しました。皆さんも、小さなことでも構いません。「やってみたい」と思った時には、ぜひ勇気を出して挑戦してみてください。その挑戦は、きっと無駄にはならないと思います。



社会福祉学部  
さくまちか  
佐久間 千嘉さん(3年)



美術展ポスター



実際に美術展で展示されていた「O」が書かれた作品



佐久間さん(左)と新井先生(右)

## 社会福祉学部イベント開催のお知らせ

社会福祉学部では、学部開設30周年記念事業として下記イベントを開催します。詳細は二次元コードよりご確認ください。

- 【ホームカミングデー】 日時:10月31日(土) 13:00~16:30  
場所:熊谷キャンパス 1号館 1101教室他(予定)  
対象:社会福祉学部卒業生・在学生・教職員  
内容:卒業生・在学生・教職員が集い、交流を深めるイベント

イベント詳細は  
こちらから！





にし だ きみ あき  
**西田 公昭**

所属：心理学部  
対人・社会心理学科

研究分野：社会心理学

## Profile

関西大学大学院博士課程、  
静岡県立大学准教授

趣味／好きな人々と宴会、旅行、写真  
撮影

休日の過ごし方／散歩(東海道五十三  
次を少しずつ完歩しました)、温泉に  
入って、美味しいものを食べる

好きなスポーツ／テニスなどの球技

犬派・猫派／両方大好き

## 「信じる」と社会現象がどう関わるか。 情報化社会の心理過程を紐解く

### Q1 どんな研究をしているの？

「信じる」をキーワードにいろいろな社会現象を研究してきました。たとえば、他者の心を支配する心理操作「マインドコントロール」や詐欺や悪質商法の被害者心理は、特に社会の話題をさらっていますが、その心理過程を研究してきました。それから、SNSの普及などによる情報環境の変化が、人々の描く世界観をどう変えているのかについても研究しています。たとえば、他者から提供される扇動的な情報に接触して、逸脱した世界観を抱いて過激化した人や集団への対策やフェイクニュースや根拠のない陰謀説などに振り回される心理などにも関心を抱いています。こうした情報を信じて命がけで活動したり、周囲の人からの忠告や根拠を持てただすコミュニケーションにまったく耳を貸さなかったりするの、どんな心理なのかを追いかけています。

### Q2 その研究を始めようと思ったきっかけは？

最初のきっかけは、学生時代に新興宗教の勧誘を受けたり、占いにハマっている人に出会ったりして、根拠が怪しいのになぜ信じられるのか、とても理解できなかったからです。それで、たまたまフロム著『自由からの逃走』という心理学書に出会い、カリスマ崇拝する集団心理に触れました。そんな関心から、大学院に入って実験や調査をして解明を目指しました。そして、どうにか研究職に就いた頃、過激な宗教団体の元信者がいろいろな違法行為に巻き込まれ訴訟を起こしていることを知り、その心理過程を研究することになったのです。その後は、自分で選んだというよりも、研究のきっかけはなりゆきばかりですね。オウム真理教の事件関係者とは、20年間、次々と法廷証人となる関係性です。それに前後して、詐欺や悪質商法での被害心理について行政機関や司法関係者などからの依頼もあり、研究することになりました。

### Q3 学生には4年間でどのようなことを学んでほしい？

大学生活は、いろいろな人生を見て、語り合って学ぶ場所だと思います。自分のその頃を振り返ると、高校を卒業して、自分が何者になろうとしているのか、何ができて何ができないのか、モヤモヤとする日々でしたね。はっきり言って、刹那的な楽しみにふけて、先行きの不安をまぎらわしていたと思います。それはそれで楽しい思い出ですが、期待したいのは、自分を小さくまとめようとせず、高みを目指して、しかし地道に、挑戦してほしいです。失敗してもなんとかなるものですし、そんな経験を背負っていくことも悪くないと思うのです。この4年間は自分の人生の中で、もっとも自由に長い時間を過ごせるとても貴重な時期です。たいていの人にとってはたった一度しかないかと思いますから、いろいろと精一杯に欲張って、後であの頃は本当によかったと同窓の仲間と笑いあえる日々にしてほしいです。



# みんなのゼミ自慢

## 実践的な農業活動で広がる学び

きた はら かつ のぶ  
**北原 克宣 先生**  
(経済学部)



お か べ る あ ん  
**記事：岡部 琉杏さん**  
(経済学部経済学科3年) 東京都立八潮高等学校出身



課外活動の実施後にはゼミ内で情報を共有します

私たち北原ゼミナールは、実践的活動を行いながら地域農業への理解を深めるとともに、農業経営や地域と関わりなど農業経済について学んでいます。

ゼミ生は2年生14名、3年生15名、4年生9名の総勢38名です。日常の活動は各学年ごとに行いますが、懇親会や夏に行われる合宿は学年の枠を超えて誰でも参加できるため、日常的には交流の少ない先輩や後輩との仲を深めるよい機会となっています。

私たちのゼミの特徴として、NPO法人農の未来ネットや他大の学生と一緒にしている課外活動が挙げられま

す。第1に、東久留米市で農業経営をされている方のもとでの農作業です。多種類にわたる野菜を栽培しているため、種まきや植付、収穫、草取りなどふだんは出来ない貴重な体験をさせていただいています。

第2に、清瀬市の圃場での活動です。ここでは、自分たちで作付・販売計画を考え、耕起作業から種まきや植付、収穫、草取りなどの作業を行います。生産から販売まで一貫して経験するというコンセプトで進めています。この活動を通じて、農業の大変さややりがい、経営

の視点についても学んでいます。今年度は、さつまいも、落花生、枝豆などを栽培する予定ですが、学内で販売する機会があればぜひ試してみたいと思っています。無人販売所や駅前などでの有人販売もチャレンジしたいと考えています。

第3の活動として、さいたま市の田んぼでの田植えと稲刈りがあります。今年の田植えはとても天候がよく暑い中での活動でしたが、田植えを終えた後の稲の様子を見ながら何とも言えないすがすがしい気持ちになりました。

以上が課外活動となりますが、普段のゼミでは、個々人

が関心を持った論文を取り上げて報告し、理解できなかったところや疑問点を中心に議論をしながら理解を深めています。

私たちのゼミの魅力をまとめれば、学んだ知識を現場で活かす考える力、ゼミ生同士で協力しながら活動を進めるためコミュニケーション能力や課題解決力が身に付いてきたと感じられることです。そして何より、農業を身近に感じられることです。これからも、農家の方やNPO法人、他大のみなさんとの交流を学びにつながら、農業への理解をさらに深めて行きたいと思っています。



他大の学生さんといっしょに汗を流しました

## 立正大学 水泳部

### 高城直基氏と アドバイザー契約を締結

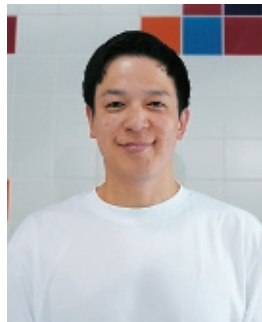


5月20日、競泳プロコーチである高城直基氏とアドバイザー契約を締結しました。高城氏は、競泳プロコーチとしてオリンピック・パラリンピックに出場する選手を多数輩出した実績を持ち、現在も日本代表クラスの選手の指導にあたっており、指導者として数多くの表彰を受けています。

本学は競泳プロコーチとして活躍する高城氏による競泳競技振興活動を支援するとともに、同氏には本学体育会水泳部のアドバイザーとしてご指導いただきます。これに伴い、このたび本学と高城氏との間でアドバイザー契約を締結する運びとなりました。体育会水泳部の学生には多彩なご経験に基づく助言を得て、競技力向上のみならず本学が掲げる「『モラリスト×エキスパート』を育む。」の具現化に向けて、今後の活躍を期待したいと思います。



締結式時の写真(左:北村学長 右:高城氏)



#### PROFILE

1979年生まれ。2003年から水泳指導者として幼児・小学生・中高生・成人・選手コースなどを指導。2010年より立石諒選手<sup>たていしりょう</sup>の指導を開始。日本選手権では平泳ぎ50m・100m・200mの3冠達成に貢献し、2012年ロンドンオリンピックでは200m平泳ぎで銅メダル獲得に導く。現在は、社会人選手を中心に指導を行っており、2026年パンパシフィック水泳選手権、9月20日から始まる第20回アジア競技大会において競泳日本代表コーチを務める。

#### 〈高城直基氏 コメント〉

この度は立正大学とアドバイザー契約が締結できたこと、大変うれしく思います。水泳はプールがなければ練習できませんが、社会人選手が安定して練習場所を確保することは容易ではありません。一般のスイミングスクールや他大学では、授業や学生の練習が優先されるため、利用できるのが早朝や深夜に限られることも多くあります。そのような中、立正大学からお声掛けいただき、アドバイザー契約を締結したことで、社会人選手が継続的に練習できる環境をご提供いただけるようになりました。選手一人ひとりが十分なレーンを確保して練習できる環境はこれまでほとんどなく、大変感謝しています。この恵まれた環境を大切に活用し、選手たちには競技で結果を残してほしいと思っています。また、今後は立正大学体育会水泳部の学生との交流や、私が指導している障害者アスリートとの練習などを通じて、「共生」について自然に学べる場づくりにも貢献していきたいと考えています。



立正大学での指導中の様子

#### 立正大学体育会水泳部について

創部: 1947年 部員数: 24名

近年の成績:

第102回日本学生選手権水泳競技大会

男子50m自由形出場

第99回関東学生選手権水泳競技大会

【男子】2部 8位

800m自由形 / 6位、400m自由形 / 4位、200m

自由形 / 4位、50m自由形 / 3位、100m背泳ぎ /

8位、4×100mフリーリレー / 8位

【女子】2部 14位

100m自由形 / 7位

## 学部あれこれ

立正大学各学部から届いたレポートです！

## 経営学部

## 恒例の経営学部オリエンテーション！

経営学部では、毎年4月上旬に新入生を対象とした「経営学部オリエンテーション」を実施しています。今年度は4月3日と7日の2日間にわたり開催されました。

このオリエンテーションの大きな特長は、「オリエンテーション実行委員会（通称：ヘルパー）」が主体となって企画・運営を行っていることです。ヘルパーは経営学部の2～4年生で構成され、約1年をかけてプログラムを準備します。当日は履修指導やレクリエーションの運営をはじめ、新入生のサポート全般を担当しています。

また、教員も参加するレクリエーションや交流パーティーも、経営学部オリエンテーションならではの特色です。これらは例年、学外会場で実施しており、今年度は4月3日にホテルグランドニッコー東京 台場で開催されました。経営学を楽しく体験できるゲームや立食形式

の交流会を通して、新入生同士の親睦を深めるとともに、教員や先輩学生との交流の機会となりました。

当日は、ヘルパー1人が数名の新入生を担当し、履修や学生生活に関する相談に応じるほか、友人づくりをサポートしました。こうした取り組みにより、新入生の大学生活への不安を軽減し、円滑に新たな環境へ適応できることが期待されています。実際に、参加した多くの新入生からも参加してよかったといった声が寄せられています。

今年度のオリエンテーション終了後には、4月末にはつとりのあ服部乃亜さんを総合チーフとする3年生の新執行部4名が発足しました。年間の活動計画の策定や新入生のヘルパー採用など、すでに来年度に向けた準備が始まっています。

ヘルパーは総勢約100名の大規模な組織です。執

行部はさまざまな場面で高いリーダーシップを発揮することが求められます。その役割と責任は大きいものの、メンバーは「新入生を歓迎し、支えたい」という想いのもと、準備を進めています。



ヘルパー新体制でのミーティングの様子

## 文学部

## 立正大学と地域の「いいとこ」発信プロジェクト

文学部の知名度アップと立正大学品川キャンパスの所在する大崎・五反田地域のいいところを伝えるプロジェクトが始まりました。そのうちの一つ、「ごたさきソロライフ」を紹介します。

「ごたさき」とは五反田の「ごた」と大崎の「さき」を合わせた造語で、大学の所在地域に親しみを持ってもらうことを企図しています。大学の周辺では大学至近の大崎駅西口で再開発が継続中で、居木神社の参道脇に高層マンションが竣工し、大崎北口改札も周辺開発と併せて大きく変貌していきます。五反田側では旧ゆうぼうとの建て替えにより「五反田JPビルディング」が完成しました。「五反田食堂」という名のフードコートや星野リゾートが運営する“街ナカ”ホテルの「OMO5東京五反田」、品川区が運営するホール「CITY HALL & GALLERY GOTANDA」を擁した20階建てオフィスビルとなり

ました。

このような周辺環境の変化は、人の流れや近隣居住者の変化をもたらします。これまで“ごたさき”にご縁がなかった方や、これから大学生になる高校生に向けて、“ごたさき”にある立正大学文学部を知ってもらうのと、現在在学中だけでも“ごたさき”を知らない学生に向けて、独りでも過ごせる「いいとこ」がたくさんあることを伝えるプロジェクトを文学部の学生が行っています。SNSを活用した動画中心の発信になるため、現在は動画撮影のポイントや、動画編集のテクニックなど、プロジェクトメンバーの学生が定期的に集まり、ノウハウを持っている人に習いながら、発信の準備を進めています。

近々公開となる「ごたさきソロライフ」、どうぞご期待ください。



活動について話し合うプロジェクトメンバーと教員



ごたさきのInstagramはこちらから！

## データサイエンス学部

## 地域・企業と一体でAI映像分析！地域のサッカーチームに貢献

地域スポーツの現場が、学生の学びを深める実践の舞台になっています。データサイエンス学部は、熊谷市、熊谷市サッカー協会、NTT東日本、NTT Sportictと連携し、AI映像分析を活用した地域スポーツ活性化の共同研究を進めました。舞台となったのは、熊谷市スポーツ・文化村「くまびあ」。設置されたAIカメラで地域サッカーチームの試合を自動撮影し、映像分析ソフトでプレーをデータ化しました。

主役である学生たちの活動はデータ収集にとどまりません。チームの目標やプレースタイルを丁寧に聞き取り、セカンドボール回収率、デュエル勝率、サイド攻撃の効果など、チームの目的や課題に合った指標を設定。5試合分の映像をもとに分析を重ね、結果を指導者や選手に直接フィードバックしました。経験や感覚に頼りがちだった課題を、数値と映像によって「誰もが話し合

える材料」へと変えたといえます。今回の取り組みの本質は、先端技術の導入そのものではありません。映像とデータを、学生、選手、指導者、行政、企業が立場や役割を超えてつながり、課題解決のための「共通言語」にしたことにあります。そこから生まれる対話は、競技力の向上のみならず、スマートシティの推進やスポーツを通じた地域創生へと広がる可能性を秘めています。今回の取り組みは成果報告会で広く共有され、熊谷市がスポーツ庁の「スポーツ・健康まちづくり優良自治体表彰2025」を受賞する背景にもなりました。参画してくれた学生にとっても、単なる「分析のお手伝い」を超え、地域スポーツに取り組む選手や指導者と向き合い、分析結果が現場に影響する責任を引き受けながら、分析する力、相手の課題を理解する力、根拠をもって伝える力を磨く実践的な機会となりました。データサイエンスへの

社会的ニーズが高まる中、今回の共同研究は、地域とスポーツを結びながら、次世代の社会に必要とされる人材を育てる力になっています。



成果報告会集合写真



RISSHO JUNIOR&SENIOR HIGH SCHOOL

# 立正大学附属立正中学校・高等学校

## 体育祭、盛大に実施される



6月8日に中学生、6月9日に高校生の体育祭が行われました。会場は代々木第一体育館という、立正中高では初の屋内での開催となりました。

従来は陸上競技場やホッケー場などを借用した屋外での開催でした。しかし、梅雨の時期ということもあって、雨天で順延したり、中止になったり、また、晴天の場合は今度は熱中症対策をとりながらの運営となるなど、天候に振りまわされてきました。

今回のような屋内での開催は、そういう状況を気にすることなく実施することができました。

当日は雨天でしたが、冷房がきいた広い体育館で、生徒たちは日頃の練習の成果を思う存分発揮して競技を楽しんでいました。保護者の方も平日にもかかわらず、たくさんの応援・拍手を送っていました。



## 先生の素顔

いいだ あつし  
飯田 敦士先生(英語科)



立正大学文学部文学科英語英米文学専攻コースを卒業後、まずは社会経験を積むため一般企業に1年間勤務しました。その後、母校である大森学園高等学校で英語科教諭として5年間勤務した後、縁あって立正大学附属立正中学校・高等学校に着任し、今年で5年目を迎えます。現在は高校3年生の担任を務めるとともに、サッカー部顧問として生徒の指導にあたっています。

英語に興味を持ったきっかけは、高校時代に洋楽に触れ、その歌詞の響きや表現の豊かさに魅了されたことでした。さらに、友人に英語を教えた際、「教え方が分かりやすい」と言ってもらえたことが教員を志す大きな転機となりました。その経験を原点に、英語が苦手な生徒の気持ちに寄り添い、「分かる英語」の授業を心掛けています。

サッカーは幼い頃から続けており、高校時代には副キャプテンを務めました。また、3歳から続けているピアノも大切な趣味の1つで、これからも長く続けていきたいと考えています。

生徒には、思いやりの心を大切に、周囲に目を向けながら自ら考え、主体的に行動できる人に成長してほしいと願っています。



RISSHO UNIVERSITY SHONAN HIGH SCHOOL

# 立正大学湘南高等学校

▼ 立正大湘南の情報をチェック



## 体育祭を開催：「誰かのために」の精神

6月11日、快晴に恵まれる中、本校グラウンドにて体育祭を開催いたしました。日頃から競技力の向上と人間性の育成を目指して活動する生徒たちにとって、この体育祭は日頃の成果を発揮する場であると同時に、集団としての絆を深める大切な教育実践の場です。グラウンドでは、どの競技においても一歩も退かない真剣勝負が繰り広げられ、大きな盛り上がりを見せました。



本校に息づく「一生懸命やるから楽しい」という伝統的な姿勢は、今年も健在でした。

高い身体能力を持つ生徒たちが、すべての競技に一切手を抜くことなく全力で挑む。そのひたむきな姿があるからこそ、見ている者も胸を打たれ、学校全体が1つになって盛り上がります。また、仲間を応援し、支え合う姿からは、日頃から大切にしている「誰かのために」という精神を感じ取ることができました。

激戦の結果、今年度の優勝をつかみ取ったのは「緑団」です。一人ひとりが自らの役割を果たし、組織として高い団結力を示した努力の成果でした。もちろん、惜しくも優勝を逃した他の団の健闘も、深く心に残るものばかりでした。

当日は、多くの保護者の皆様にご来場いただき、生徒たちへ温かい声援を届けていただきました。皆様の前で全力を見せられたことが、生徒たちにとって大きな励みとなりました。たくさんのご声援、本当にありがとうございました。

## サッカー部、島根6連覇&3年ぶりの中国王者に！夏の全国IHへ向けて

いつも立正大湘南高校へ温かいご声援をいただき、誠にありがとうございます。

本校サッカー部は、島根県高校総体予選を3-0の快勝で制し、6大会連続19回目の優勝を決めました。続く「第73回中国高等学校サッカー選手権大会」でも、強豪を次々と撃破し、3年ぶりとなる「中国王者」の座を奪還いたしました。

中国大会では、1回戦(米子北戦)と準決勝(作陽学園戦)の息詰まるような接戦を執念でモノにし、決勝へ進出。岡山学芸館との大一番に臨みました。スタンドからの先制を期待する大応援がスタジアムの熱気を高めるなか、選手たちは立ち上がりから果敢に相手ゴールを目指します。後半に入ると、見事な連携から小原、我那覇が相次いでゴールをこじ開け、2-0と突き放すことに成功。そのままりードを守り切り、歓喜のタイムアップを迎えました。

チームが日々追い求める「勝負強さ」と「日常の進化」を、ピッチの上で見事に体現する大会となりました。

舞台はここから、夏の全国インターハイ(IH)へと移ります。今大会の最高の勢いと、見出したさらなる成長への課題を次へつなげ、部員全員で「全国制覇」というより一層の高みを目指してまいります。

読者の皆様、今後とも本校サッカー部への熱い応援をよろしくお願いいたします。



# 01 東京都「大学発スタートアップ創出支援事業」(学内体制構築支援)に採択！

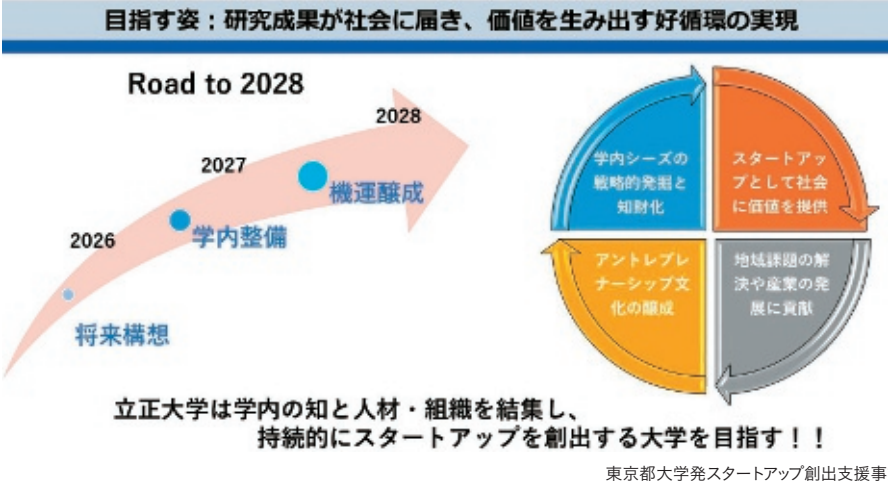
立正大学ではこの度、東京都が推進する「大学発スタートアップ創出支援事業」(学内体制構築支援)に採択されました。同事業は、知の拠点である大学が集積する東京の強みを活かし、研究シーズやアイデア等の事業化をサポートするもので、令和5年度からスタートアップ創出に向けた大学を支援しております。

本学はこれまで品川キャンパスの共同研究ラウンジや学内の研究シーズ収集等研究成果の事業化に向けた取り組みを進めてまいりました。また、第2次中期計画(2023～2027年)においても「社会・地域のニーズに応える活動の推進」を重点方針として掲げています。本企画は、こうした教育・研究・地域連携の蓄積を起点として、研究成果を社会実装、さらには大学発スタートアップの創出へとつなぐ「知的創造サイクル」を確立させることです。具体的には、人文・社会科学的知見や倫理観、法制度への理解をデータ活用力と組み合わせた「社会課題解決型・価値創造型スタートアップ」を通じ、地域社会への貢献につなげてまいります。

また、本学には人文・社会科学、自然科学、データサイエンス、地域連携、実践的教育など、多様な知的資源が蓄積されています。今後は、これらの知をより有機的に結び付け、研究成果の社会実装や大学発スタートアップの創出へと発展させるため、学内の支援体制を一層充実させていくことが重要であると考えています。

これを踏まえ、本支援では熊谷キャンパスへのインキュベーションセンター設置と品川キャンパスの共同研究ラウンジ(サテライト機能)を核とした「ハイブリッド型支援体制」の構築を構想しています。協定期間内(令和10年3月31日まで)には、知的財産・利益相反管理・教職員起業参画等に関する学内規程や支援フローの整備を進め、体制構築・人材育成・意識醸成へとつなげる計画です。大学全体として、大学発スタートアップ創出を9学部 of 知を集積する全学的な戦略課題と位置付け、外部支援を積極的に活用しながら、支援終了後も自走可能な持続的スタートアップ支援体制の確立を目指します。

今回の採択により、東京都が委託するコーディネーターを通じて、学内のビジョン・戦略の明確化や、組織体制の整備、専門家等とのネットワーク形成などに向けた支援を受けます。これにより、学内の知と人材・組織を結集し、研究成果を社会に届け、新たな価値を生み出す好循環を実現することで、持続的にスタートアップを創出する大学を目指します。



研究推進・社会貢献課 (品川担当) 小林 中野

【お問い合わせ先】 (電話: 03-3492-8152 / メール: skenkyu@ris.ac.jp)

センターページURL: <https://rpra.ris.ac.jp>

# 02 今年の秋も開催！「立正大学デリバリーカレッジ」

立正大学では、地域の皆さまに大学の学びを身近に感じていただく機会として、「立正大学デリバリーカレッジ」を実施しています。今年度も秋期の開催が決定しました。

デリバリーカレッジは、本学の教員や名誉教授が地域へ赴き、それぞれの専門分野について、一般の方々にも分かりやすく紹介する生涯学習事業です。

総合大学ならではの幅広いテーマを取り上げ、毎年多くのみなさまにご参加いただいています。地域にいながら大学の講義に触れることができるこの事業は、知的好奇心を深める学びの場として親しまれているだけでなく、大学と地域との交流を促進し、地域社会への貢献にもつながっています。

今年度の秋期講座についても、多彩な内容を予定しています。講座の日程や内容、申込方法などの詳細は、各開催地の広報紙やホームページ等で順次お知らせします。

この機会にぜひご参加いただき、本学の学びに触れてみてください。



春期に釜石市で開催されたデリバリーカレッジの様子

| 開催地 | 日 程       | 講演テーマ                                  | 講 師                                |
|-----|-----------|----------------------------------------|------------------------------------|
| 郡山市 | 9月17日(木)  | 心理学の知識を活かして日々の緊張をほぐそう！                 | ふく い はる な<br>福井 晴那(心理学部 助教)        |
|     | 9月24日(木)  | 紀州ドンファン殺人事件無罪判決について～裁判員はなぜ無罪を選択したのか    | とも だ ひろ ゆき<br>友田 博之(法学部 教授)        |
|     | 10月 1日(木) | 江戸時代村の事件簿                              | くり ばら けん いち<br>栗原 健一(文学部 講師)       |
|     | 10月 8日(木) | 「ChatGPT」をちょっと、高度に使ってみましょう！            | しら かわ きよ み<br>白川 清美(データサイエンス学部 教授) |
| 筑西市 | 10月10日(土) | なぜ「昭和レトロ」に心ひかれるのか                      | あさ おか たか ひろ<br>浅岡 隆裕(文学部 教授)       |
|     | 10月24日(土) | 悩める若者に夢を与える大人の役割                       | ところ まさ ふみ<br>所 正文(心理学部 教授)         |
| 佐野市 | 10月24日(土) | キャッチアップ型イノベーションの正体ー中国の産業競争力は何故、躍進しているか | えん し か<br>苑 志佳(経済学部 教授)            |
|     | 11月28日(土) | ゲノム編集・AI(人工知能)と新たな生命操作の時代              | みぞ ぐち はじめ<br>溝口 元(名誉教授)            |
|     | 12月19日(土) | シェイクスピアの名台詞をどう訳すか？                     | い ざわ たか し<br>伊澤 高志(文学部 准教授)        |
| 千葉市 | 11月10日(火) | 知らないことやばい！高校生にもわかる著作権の話                | きょう れん こう<br>姜 連甲(法学部 准教授)         |
|     | 11月12日(木) | 忘れられる権利ーインターネット上から自分の記録を消したい           | なん ぶ<br>南部 あゆみ(データサイエンス学部 准教授)     |
| 三郷市 | 11月12日(木) | 関東における古墳時代終末期の様相                       | こん の えい じ<br>紺野 英二(文学部 講師)         |
|     | 11月26日(木) | 寺院史料が伝える日本仏教の歴史                        | ほん ま しゅん ぶん<br>本間 俊文(仏教学部 教授)      |
| 座間市 | 11月25日(水) | 身体感覚をとりもどすーオトコの髭剃りを事例としてー              | た じま かず ひさ<br>田嶋 和久(文学部 教授)        |
|     | 12月 2日(水) | 城壁の岩石学                                 | かわ の よし のぶ<br>川野 良信(地球環境科学部 教授)    |

# 昨年度に続き堅調、2025年度本学卒業生の就職状況と インターンシップ仕事体験フェア開催



## 2025年度卒業生の就職状況

2025年度の本学卒業生（2026年3月卒）の就職率（※1）は97.0%（前年度比－0.7ポイント）となりました。過去最高であった昨年度には及びませんでしたが、コロナ禍以前の2017年度・2018年度の97.1%に迫る高い水準を維持しています。

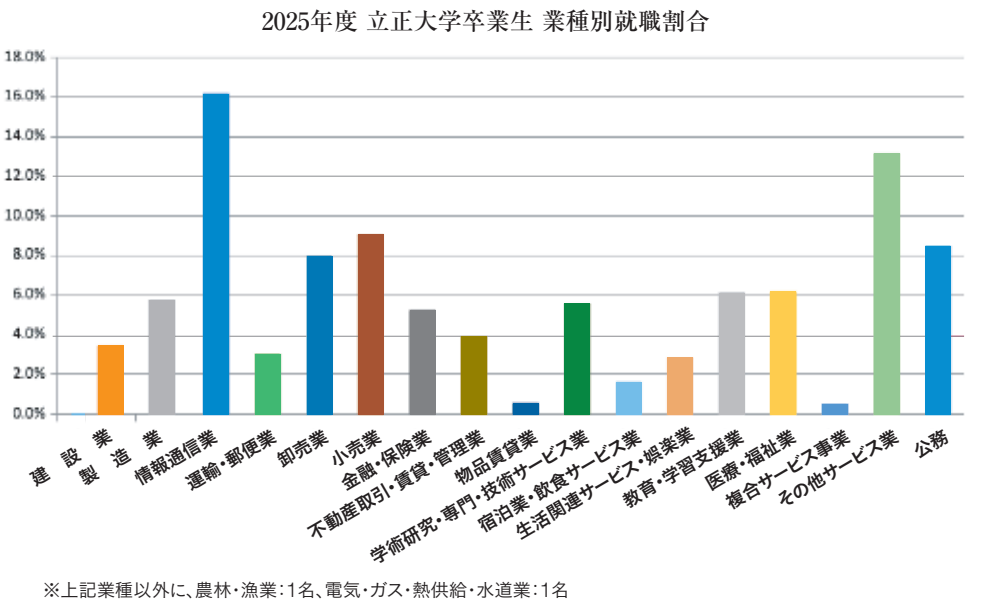
業種別の就職者数では、上位5位までが情報通信業、その他サービス業、小売業、公務、卸売業の順となりました。順位に若干の変動はあるものの、業界の傾向としては昨年度と同様です。

第1位の情報通信業については、近年の採用の早期化の流れの中でも特に選考時期が早い業界ということもあり、就職者数は昨年度比110%と増加しました。学部別では、文学部が約1.5倍と大きく伸びた点が特徴的です。情報通信業の採用担当者からは、文系学生に対して、コミュニケーション力、論理的思考力、主体性、課題発見力・解決力といった文系ならではの強みを期待しており、業務に必要なスキルや資格については、研修や実務を通じて十分に習得できるため、安心して応募してほしいとのことでした。こうしたお話から、文系学生に対する採用意欲の高さがうかがえます。

これら企業が求める人物像は、情報通信業に限らず多くの業種でも共通していると思われ、本学学生が授業や課外活動、アルバイトやボランティアなどを通じて培ってきた力を十分に発揮できる環境が広がっているといえます。

また、昨年度大幅に増加した公務については、やや減少したものの一昨年度比では130%となっており、公務員志望の学生にとっては引き続き良好な状況が続いています。

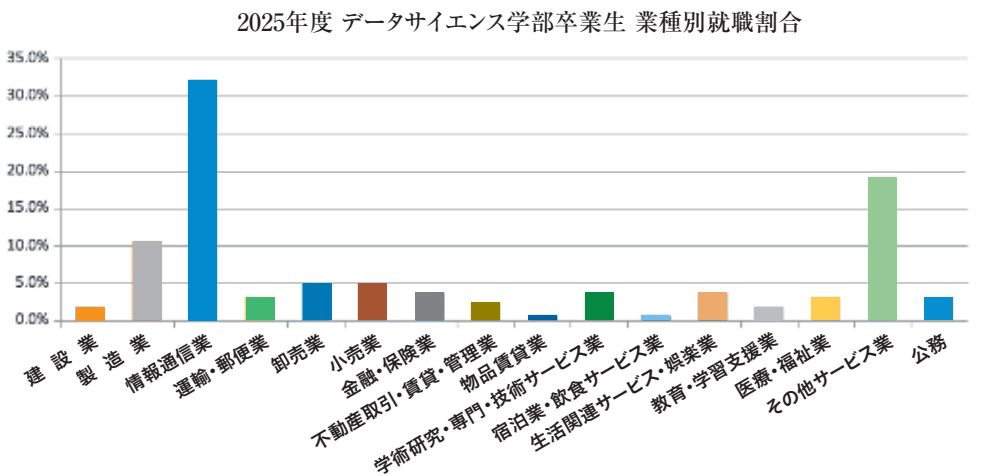
※1 就職率は、就職希望者を母集団とした割合



## データサイエンス学部 2025年度卒業生 就職率100%達成

一昨年度、初の卒業生を送り出したデータサイエンス学部は、全学で唯一、就職率100%を達成しました。業種別では、情報通信業が32.3%（前年度比+5.4ポイント）と最も多く、昨年度を上回る結果となりました。職種別では、SE・プログラマーなどの情報処理技術者が36.7%（同+1.7ポイント）を占めています。

その中には、情報通信が主たる事業ではない国内大手メーカーへ進んだ学生もあり、本人に話を聞いたところ、応募先の企業がデータサイエンスという専門分野に強い関心を示し、学びの内容をアピールしやすかったとのことで、データサイエンス人材が情報通信業にとどまらず、幅広い業界に求められていることがうかがえます。また、前年度に就職した先輩からの助言も役に立ったとのことで、卒業生を輩出してから日が浅い学部ではあるものの、先輩から後輩へと体験がしっかり引き継がれている好循環も生まれています。



## 早期化に対応した「インターンシップ仕事体験フェア」を開催

企業や団体での就業体験を行うインターンシップ（5日間以上）や、オープン・カンパニー（1日程度の短期プログラム）など（以下、総称してインターンシップ等）は、近年、学部3年生（および修士1年生）の9割以上が参加意向を示しており、主な参加時期は3年次の7～9月の夏期となっています（※2）。

就職活動においてインターンシップ等は、業界・企業・職種への理解を深め、入社後のミスマッチを防ぐとともに、漠然としていた「働くイメージ」を具体化する重要な機会となります。また、企業によってはエントリーシート等による選考が課されることもあり、本格的な採用試験に向けた実践的な経験にもなります。さらに、参加後には参加者限定のセミナーや早期選考の案内がある場合もあり、こうした機会を通じて就職活動を本格的に開始する流れが近年の主流ともなっています。

キャリアサポートセンターでは、これらの動向を踏まえ、企業・団体を学内に招き、業界や自社の事業内容を含め、開催予定のインターンシップやオープン・カンパニーについて説明していただく「インターンシップ仕事体験フェア」を昨年に続き今年も6月に、品川・熊谷の両キャンパスで開催しました。

当日は、両キャンパスともに各ブースで学生が熱心に説明を聞く姿が見られ、参加した学生からは「事前のイメージと異なり、より深く業界・企業研究する必要性を感じた」「友人に勧められての参加だったが有意義だった」「大

規模な説明会よりも近くで話を聞けるのがよかった」といった声が寄せられました。また、企業・団体の方からも「学生とフランクに話せる雰囲気がい」「学生が真剣に耳を傾けてくれ、好印象だった」との評価をいただき、学内開催ならではの距離感の近さにより学生と企業の相互理解が深まるとともに、学生にとっては社会への関心が高まり、今後のインターンシップ参加に向けた具体的な準備の場として、貴重な機会となりました。

学生の皆さんには、卒業後の人生について視野を広く持ち、さまざまな業界や職種に目を向けながら、自身の価値観や強みと向き合い、納得のいく進路を主体的に選択してほしいと考えています。そのためにキャリアサポートセンターでは、今後も企業・団体のみなさまと連携しながら、学生一人ひとりが自らの将来を見据え、主体的に行動できるよう、きめ細かな支援に努めてまいります。



インターンシップ仕事体験フェア(品川キャンパス)



インターンシップ仕事体験フェア(熊谷キャンパス)

※2 株式会社キャリアタス キャリタス就活学生モニター2027・2028調査結果より

## サッカー部

関東大学リーグ3位で折り返し  
総理大臣杯出場決定

本学サッカー部は、4月5日に開幕した「第100回関東大学サッカーリーグ戦2部」で、6月7日までに行われた前期11試合を6勝2分3敗で終え、3位につけました。開幕から3勝1分と好スタートを切り、中盤には3連敗を喫したものの、その後は3勝1分と巻き返し、自動昇格圏まで勝点1(7月27日現在)差と、関東1部リーグ復帰を十分に狙える位置で前期を折り返しました。

前期リーグ終了後に行われた「アミノバイタル®カップ2026 第15回関東大学サッカートーナメント大会」では、10日間で5試合という過密日程を戦い抜き、3大会ぶり3度目となる総理大臣杯(全日本大学サッカートーナメント)出場を決めました。

主将の西脇虎太郎選手は、「全員がそれぞれの役割を果たし、最後まで走り抜いた10日間だった」と大会を振り返ります。関東学院大学戦や日本大学戦、法政大学戦での激闘を挙げ、「どの試合も簡単ではなかったが、仲間を信じて戦い続けた結果、全国への切符をつかむことができた」と手応えを語りました。また、「昨年の悔しさを糧に、勝負どころで踏ん張れるチームになった。総理大臣杯では立正大学体育会サッカー部の新たな歴史を刻む覚悟で挑みたい」と力強く意気込みを述べています。

9月2日に開幕する総理大臣杯では、2019年のベスト8を上回る過去最高成績、そして悲願である関東1部リーグ復帰を目標に、チームはさらなる研鑽を重ねています。引き続き、本学サッカー部への温かいご声援をよろしくお願いいたします。



サッカー部の  
情報をチェック!



## ラグビー部男子

厳しいシーズンながらも  
得たものは次へのステップに

4月から始まった2026年度春季交流大会は1勝4敗で6位となりました。

厳しいプレシーズンを経て、チームの底上げを図るため毎週メンバーを入れ替えたり戦術を細かく変更したりしながらも、ベースとなる“立正ラグビー”を大事にして春季大会を戦い抜きました。勝利までは届きませんでしたが、大学選手権常連校や優勝経験のあるチームと戦えたことを次の力へと代えていきます。

## 共同キャプテンからリーグ戦へ向けての抱負

もうないこうき  
毛内孝樹(データサイエンス学部4年)

チームの強みを置き、勝利に貢献できるよう全力で戦います。どんな状況でも最後までやり切り、一戦一戦成長につなげていきます。

みやかわはると  
宮川 晴登(データサイエンス学部4年)

目標である大学選手権出場を果たすために、常に先頭に立ち、体を張り続け、誰よりも熱く最後まで闘い抜きます。

## ヴィリケサ・リモリモ(データサイエンス学部4年)

I will try my best to lead the team and set good examples for the team to achieve more success. (チームを率いてより多くの成功を収められるようよい手本を示し、最善を尽くします。)



チームの顔でもある共同キャプテンの3人



今シーズン注目の原口 凌河選手(データサイエンス学部4年)



## 2026春季大会結果

|          |        |
|----------|--------|
| VS流通経済大学 | 26-40● |
| VS帝京大学   | 14-87● |
| VS日本体育大学 | 12-21● |
| VS慶應義塾大学 | 10-54● |
| VS法政大学   | 24-22○ |

## 契約情報

本学ラグビー部から新たにリーグワン選手が輩出されました。

ますお りょうく  
舩尾 緑(データサイエンス学部3年)  
→埼玉パナソニックワイルドナイツ

所属先でのさらなる飛躍を願っております!

## 注目選手

はらぐち りょうが  
原口 凌河(データサイエンス学部4年)

プロップというポジションながら出足鋭いタックルを繰り返すチームマン

## ラグビー部女子

世界  
挑戦

立正大学ラグビー部女子は、「立正大学から世界へ」を合言葉に、日々の活動に励んでいます。今年度は新たに10名の新入生が加わり、チームはこれまで以上に活気に満ちています。国内屈指の強豪校出身者や世代別日本代表経験を持つ選手も入部し、競技力の向上への大きな追い風となっています。先輩選手たちは競技面だけでなく大学生活の面でも丁寧にサポートし、学年を超えた学び合いと支え合いがチームの強さを支えています。

今年度特に注目していただきたいのは、社会福祉学部4年生の山田晴楽選手です。山田選手は昨年度、世界最高峰の国際大会「セブンズワールドシリーズ」に日本代表として出場し、堂々の3位入賞に貢献しました。世界の舞台で得た経験はチームにとって大きな財産であり、山田選手自身も「大学最後の年、仲間とともに結果を残したい」と強い意気込みを語っています。

チームは今年、国内最高峰の女子7人制ラグビー大会「太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ」に参加いたしました。6月から8月にかけて国内4カ所を転戦し、昨年の年間11位から順位を

# クラブ等情報

## 硬式野球部

## “真価”を示す秋 1部優勝、そして3度目の日本一へ

立正大学硬式野球部は、2026年東都大学野球春季リーグ戦において、6勝9敗・勝ち点1の第5位という成績でシーズンを終えました。10季ぶりとなる1部での戦いでしたが、悔しさの残る結果となってしまいました。

春季は、1部に所属する全ての大学から白星を挙げたものの、勝ち点獲得には至りませんでした。一方、チームの成長を感じる場面もあり、秋季リーグへの確かな手応えを得ることができたシーズンにもなりましたので、チーム全体として、着実に力をつけるべく切磋琢磨してまいります。

今季も無事にシーズンを終えることができたことは、日頃より応援してくださっているみなさまのおかげで、この場をお借りして、部員・スタッフ一同、心より御礼申し上げます。温かいご声援をありがとうございました。

### 【個人表彰について】

ただ あんと  
高田庵冬(データサイエンス学部1年)

1年生ながら攻守でチームを牽引し、打撃では5本塁打を記録。東都リーグの1シーズン本塁打数新記録を樹立し、1部リーグでは唯一の満票で、新人賞を受賞しました。

また、大学日本代表候補に選出された三好元気(みよし げん き)(同学部3年)、仁田陽翔(に た はると)(同学部3年)、1年生ながら開幕2戦目で初登板を果たし、緩急を織り交ぜた投球を武器とする大村昂輝(おおむら こう き)(同学部)など、経験豊富な上級生と若手選手が融合し、秋季リーグで勝ち点獲得を目指します。

### 【秋季リーグに向けて】

春季リーグ戦で味わった悔しさをバネに、私たちは秋季リーグでの1部優勝、そして3度目の日本一という目標に向かって、日々練習に励んでいます。

皆様からのご声援は、グラウンドで戦う選手たちの大きな力となります。これからも立正大学硬式野球部への変わらぬ応援をよろしくお願いいたします。



高田庵冬

## と地域に根ざした を続ける新シーズン



上げることができました。試合ごとに課題を明確にし、改善を積み重ねてきた成果が着実に表れ、選手たちの成長を強く感じるシーズンとなりました。

さらに、学生だけで挑む唯一の全国大会である「大学女子セブンズ」では、今年度は5位という結果でした。悔しさは残るものの、新入生を含めた選手たちが試合を通して多くの学びを得ることができ、次年度に向けた大きな成長の機会となりました。

また、地域貢献活動として熊谷市内の小中学校でのラグビー授業や、幼稚園での指導活動にも積極的に参加しています。ラグビーの楽しさを伝えるとともに、地域とのつながりを大切にしながら活動を続けています。

立正大学ラグビー部女子は、国内大会での上位進出、そして世界の舞台で活躍する選手の輩出を目標に、これからも挑戦を続けてまいります。引き続き、温かいご声援をよろしくお願いいたします。

## 陸上競技部 駅伝部門

## 関東インカレ・ 全国男鹿駅伝で健闘

### 大会結果報告

4月5日に静岡県焼津市で開催された「第105回関東学生陸上競技対校選手権大会ハーフマラソン」に本学陸上競技部から橋本将汰選手(はしもと しょうた)(4年)が出場し、ハーフマラソン男子2部決勝で1時間5分07秒を記録し、11位となりました。

5月21日から24日にかけて、カンセキスタジアムとちぎで開催された「関東学生陸上競技対校選手権大会」には、宇都宮光希選手(うつのみや こう き)(3年)とジェレミア・カマウ選手(2年)の2名が出場しました。

男子2部では、宇都宮選手が3000メートル障害予選に出場し、9分20秒66で8位となりました。また、ジェレミア選手は5000メートル決勝で13分50秒72を記録し、総合16位の成績を収めました。

この大会は、年間を通して行われるトラックレースの中でも最も重要な大会の一つです。今年度は4名が標準記録を突破し、3名(1名欠場)出場を果たしました。来年度はさらに多くの選手がこの舞台に立てるよう、標準記録突破を目標に、日々の記録会や競技に挑戦していきます。

また、6月27日に開催された「全国男鹿駅伝競走大会」では大学の部に出場し、14校中8位入賞を果たしました。

1区 8.7km はしもと しょうた 橋本 将汰(4年) 27'05" 通過2位・区間2位  
2区 6.0km つがね かい と 津金 海斗(2年) 20'18" /47'23" 通過9位・区間9位  
3区 8.1km わだ のぞみ ジェレミア・カマウ(2年) 22'09" /1.09'53" 通過6位・区間1位  
4区 9.2km むらた はる き 和多 希巳(2年) 28'37"/ 1.38'31" 通過8位・区間9位  
5区 7.5km むらた はる き 村田 晴輝(1年) 24'38" 2.03'09" 通過8位・区間8位  
6区 11.7km あいかわ さく や 相川 朔弥(2年) 37'48"/ 2.40'57" 通過8位・区間11位  
7区 9.3km うめはら りゅうせい 梅原 龍聖(2年) 29'16" /3.10'14" 通過9位・区間10位  
8区 4.3km ちねん ゆう と 知念 優斗(3年) 12'26"/ 3.22'41" 総合8位・区間4位

この大会では、1区の橋本選手が勢いのあるスタートを切り、タフなコースの中で選手一人ひとりが持てる力を発揮しました。4区終了時までは格上の大学と互角に競り合う展開となり、チームとして大きな手応えと成長を感じる大会となりました。

今後は、10月に迫る箱根駅伝予選会に向けて、この夏の練習に全力で取り組みます。チーム一丸となって競技力のさらなる向上を図り、目標達成に向けて挑戦を続けてまいります。



関東インカレに出場した3名。  
左から、ジェレミア・カマウ、橋本将汰、宇都宮光希



男鹿駅伝でのジェレミア・カマウ

### 今後の試合日程情報

|               |                     |
|---------------|---------------------|
| 9月5日          | 第95回日本学生陸上競技対抗選手権大会 |
| 9月26日<br>～27日 | 第332回日本体育大学長距離競技会   |
| 10月17日        | 第103回東京箱根間往復駅伝競走予選会 |

＼ 学生生活を充実させよう！／

立正大学サークル情報

# CIRCLE 2026

本学には120以上の  
さまざまな課外活動団体が活動しています。  
今回は、独立団体の「応援指導部」を紹介します。

CIRCLE INFO

## 応援指導部

### 元気な笑顔で選手たちを盛り上げる縁の下の力持ち

私たち応援指導部は、硬式野球部などの体育会所属団体の応援や、大学祭・地域イベントでの演舞披露を主な活動としています。現在はチアリーダー部門18名(品川キャンパス13名・熊谷キャンパス5名)で活動しており、リーダー部門や楽器部門がない中でも、一体感と迫力のある応援を目指しています。

練習で常に意識していることは、「笑顔」と「声を出すこと」です。毎回の練習から意識して取り組まなければ、本番で力を発揮することはできません。また、実際の応援では「負けている時こそ応援を止めないこと」を大切にしています。応援団が落ち込んだ雰囲気を出してしまうと、その空気は観客や選手にも伝わってしまうと思うからです。どんなに苦しい試合展開やピンチの場面でも、笑顔で大きな声を出し、1人でも多くの観客に立正大学を応援してもらえよう、「一緒に応援してください!」という気持ちを前面に出して活動しています。

応援で最も盛り上がるのは逆転した瞬間です。硬式野球部の応援では、球場全体の空気や観客の熱

量が一気に変わり、一体感が生まれる瞬間が、私たちにとって何よりの喜びです。また、他大学の応援を研究する中で、応援の声や熱量は試合の流れだけでなく、球場全体の雰囲気を変え、選手を後押しする大きな力になることを実感しています。

私たちは、選手がいてこそ成り立つ、いわば「脇役」です。それでも、選手から「応援が力になった」と声を掛けていただけた時は、応援する側だからこそ味わえる喜びとやりがいを実感します。

現在の課題は認知度向上です。学内でもまだ活動が十分に知られておらず、応援依頼や新入部員の勧誘につながりにくい現状があります。今後は応援指導部の魅力をより多くの方に知っていただき、新たな仲間を増やしながら、立正大学をさらに盛り上げていきたいと考えています。

応援指導部は、学年や経験に関係なく、部員同士が支え合いながら活動しています。20代目となる私たちの代も、OB・OGの方々から受け継いできた伝統を大切にしながら、時代に合わせた新しい応援の

形にも挑戦しています。部員のほとんどが初心者からのスタートですが、仲間と声を合わせ、一つの応援を作り上げる課程で、かけがえのない絆を築くことができます。誰かの頑張りを後押しするだけでなく、応援する側も応援を受ける側も、一緒に楽しめる空間を作れることが私たちの魅力です。私たちと一緒に、立正大学の伝統を未来へつなぎ、応援の力で大学を盛り上げていきませんか?



#### 学生安否確認システム登録のお願い

本学では、自然災害や地震発生時に、在籍する学生の安全確保を目的とし、緊急連絡ならびに安否確認の手段としてセコムトラストシステムズが運営する「セコム安否確認サービス(e-革新)」を導入しています。

パソコンでの登録やその他詳細については、  
『ポータルサイト>Myツール>キャビネット>3. 学生生活支援>  
6. 安否確認システム内の各種資料』を参照してください。

企業コード:01013(半角)  
ユーザーID:学籍番号(英字は大文字)  
パスワード:生年月日の下4ケタ(月日)(例)4月1日 → 0401



お問い合わせ 品川学生生活課 電話:03-3492-6698 / 熊谷学生生活課 電話:048-536-6012

#### お知らせ

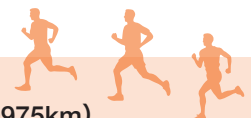
#### 第103回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会 駅伝部門出場のお知らせ

本学駅伝部門が、第103回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会に出場いたします。悲願の本選出場を目指し、選手一同全力で挑みます。ぜひ、在学生・卒業生・教職員の皆様も現地で温かいご声援をお願いいたします。

開催日:10月17日

距離:ハーフマラソン(21.0975km)

場所:陸上自衛隊立川駐屯地〜立川市街地〜国営昭和記念公園



#### \\ 大学公式Instagram更新中! //

大学公式Instagramでは、キャンパス内外でのさまざまなイベント、学生の活躍、学内の最新情報をお届けしています。また、学生のインタビュー、学部紹介、クラブ活動の様子なども掲載中です。みなさまの日常に役立つ情報や楽しいコンテンツを発信していきますので、ぜひフォローして最新の情報をチェックしてください!



#### 学園新聞Web版・公式サイト・SNSはこちらから



学園新聞  
Web版



立正大学マガジン

検索



公式サイト



立正大学

検索



公式Facebook



公式X  
(旧Twitter)



モラリすX  
(旧Twitter)

セミナーやイベント情報、クラブ活動の様子などをSNSで配信中!  
ぜひフォローしてチェックしてみてください。

#### 本紙へのご感想を お待ちしております!

#### 立正大学学園新聞アンケート

立正大学学園新聞編集委員会では、読者のみなさんの声をもとに、よりよい紙面づくりをしていきたいと考えております。今後の紙面づくりの参考にさせていただきますので、アンケートにご協力ください。



アンケート